



《薬師堂付近の紅葉》

## 鉢盛おろし

### 紅葉

秋になると、木々の葉が赤や黄色、茶色などに色づき、美しい紅葉を楽しむことができます。この紅葉は、主に葉緑体の分解とアントシアニンの合成による自然現象です。葉緑体は光合成を行うための器官で、葉緑体の中に含まれるクロロフィルは、太陽の光を吸収して、二酸化炭素と水から糖を合成します。秋になると、日照時間が短くなり、気温が低くなるため、光合成の効率が低下します。そのため、葉緑体は分解され始め、葉は緑色から赤や黄色、茶色に変化します。一方、アントシアニンは、植物が紫外線から身を守るために合成する色素です。秋になって光合成の効率が低くなったときには、太陽の光が強すぎて植物の体の害になる場合があります。アントシアニンはおもに紫外線を吸収するので、葉緑体のはたらきが弱まったときに強すぎる光をやわらげる役割があると考えられています。

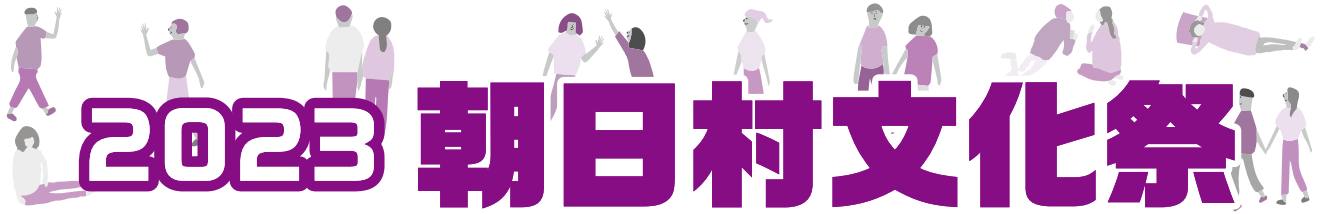
このように紅葉は、クロロフィルが減つてもとからあるカロテノイドが目立つと黄色に、アントシアニンが多く作られると赤色になる現象です。

紅葉の色は、木の種類や気候によって異なります。モミジやカエデなどは、アントシアニンを多く含むため鮮やかな赤色に色づきます。一方、イチヨウやハナモモなどは、アントシアニンをあまり多く含まないため黄色や茶色に色づきます。

村内各地の山々も色鮮やかに染まり、美しい紅葉が楽しめます。紅葉は、自然の美しさを感じられる素晴らしい自然現象です。ぜひ紅葉狩りに出かけて、自然の恵みを満喫してみてくださいはいかがでしょうか。

(M・K)





# 2023 朝日村文化祭



公民館入口のアーチ

さわやかな秋晴れの中、11月4日(土)・11月5日(日)に、令和5年度朝日村文化祭が開催されました。コロナへの不安が和らぎ、お天気にも恵まれたおかげでしょうか、例年になく人出だと、私は感じました。

館報の取材で公民館を訪ねると、正面玄関前に設置されたアーチが出迎え、公民館の玄関までは、「たこ焼き屋さん」「射的屋さん」「フルーツ館屋さん」などが立ち並んでいました。そんな光景を目にし、お昼に何を食べようかと、キョロキョロしながら歩みを進め、玄関を入りトレセンアリーナに向かいました。

トレセンアリーナでは、オープニングセレモニーが開かれ、主催者および来賓の方の挨拶に引き続き、朝日鉢盛太鼓の演奏が文化祭の開始を告げていました。軽快な太鼓の音に、やすらぎを感じたのは、私だけでしょうか。次に、公民館の前庭に足を運びました。そこで私の視界に、パトカーが飛び込んできました。白バイもあります。子ども制服試着も行っていました。午後には、消防署のはしご車の乗車体験も行っていました。好きな方には、とても良い経験のチャンスだったと思います。



朝日鉢盛太鼓の演奏



はしご車の乗車体験



パトカー、白バイの展示





にぎわう公民館玄関前



小学校金管バンドの皆さん



ゲートボール場前のクレープ屋さん



かたかごコーラスの皆さん

トレセンアリーナに戻り、文化発表会を視聴しました。小学校金管バンド、かたかごコーラス、サンライズの方々が、日ごろの練習の成果を発表されました。プログレッシブ・フォーメーションと聞き取れたのですが、金管バンドの子ども達が、動きながら隊列を変化させ、時には、ダンスもまじえた演奏が、とても印象に残りました。

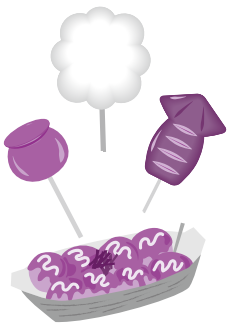
2日目は、文化講演会が朝日村図書館開館100周年記念事業として、公民館講堂で行われました。講師は北沢彰利さんです。学校の先生を勤め上げ、信濃町の黒姫童話館の館長などを歴任し、作家活動もされている方だそうです。講演のテーマは「森の赤鬼 C・W・ニコルの遺言」でした。自然を慈しみ、自然と共存したニコルさん。北沢先生の語り掛けが上手かったのでしよう、話を聞き終わった時には、ニコルさんの人柄が身近に感じられ、穏やかな気持ちになりました。

まだまだ、書き切れない出展がありました。朝日村カレー大作戦、美術館では濱田卓司さんのギャラリートーク、トレセンアリーナには沢山の展示物、木工品の実演制作、スラックライン体験、期限切れ間近の防災備蓄食料の無料配布、お食事処もりのこびとも営業していました。等々。

盛沢山で充分にその人、そのご家庭に合った楽しみ方のできるイベントであったと思えました。私は、たこ焼き、焼きそばを食べ、コーンスープを飲み、朝日村の新米とシイタケを買い、充分楽しみ帰途に付きました。



講演される北沢彰利さん



# 2023 朝日村表彰式



賞状を受け取る受賞者

11月5日(日)に、令和5年度朝日村表彰式が役場大会議室で開催されました。今年度の受賞者は、左記になります。

- ◆ 齊藤勝則さん  
村議会議員を5期20年勤められた。
- ◆ 高橋廣美さん  
村議会議員を3期12年勤められた。
- ◆ 林邦広さん  
村議会議員を3期12年勤められた。
- ◆ ダイドードリンク株式会社殿  
朝日村と森の里親協定を締結し、長年にわたり御寄付をいただいた。
- ◆ タカサワ通商株式会社殿  
朝日村の農業振興のためにアシストスーツを寄贈いただいた。



## サラダの里通信

### 朝日村大博覧会・ボルシチまつり

9月23日(土)朝日村の文化や食の魅力などを多彩に発信する「朝日村大博覧会Ⅶ」と村産ビーツ(鮮やかな赤紫色の野菜)で作ったボルシチ(ウクライナ発祥とされるスープ料理)を提供する「第2回ボルシチまつり」が朝日村緑のコロシアムで開催されました。

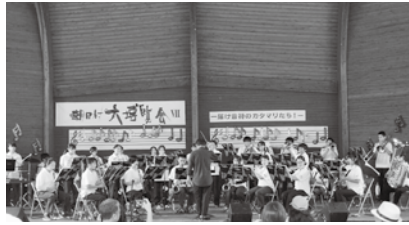
「届け音符のカタマリたち!」をテーマに音楽発表や飲食物の販売、また、体験・遊びコーナーも設置され村内の大勢の人で賑わいました。

音楽発表は、鉢盛中学校吹奏楽部、朝日民謡教室、かたかごコーラス、じゃがーずなど村民や村ゆかりの9団体等が出演しステージを盛り上げ、飲食物の販売では、商工会青年部をはじめ村内の飲食店等が出店し、来場者は食事をしながら音楽を楽しんでいました。

また、ボルシチは、商工会女性部が300食をつくり、完売していました。

ロシアによる軍事侵攻が続くウクライナの支援につなげようと昨年から大博覧会と同時間開催し、会場にはウクライナ支援のための募金箱が設置され37,297円の支援金が集まりました。

朝日村大博覧会実行委員会の上石保之会長は、「村や各団体の協力があったって開催することができ感謝申し上げます。」と話していました。



### クラフト体験館まつり

10月21日(土)、村施設の「クラフト体験館まつり」が今年も取り行われました。

秋晴れの1日、多くの来場者で賑わい、特に子どもさん達は、お目当ての「木工体験」「モルック体験」など、クラフト愛好会メンバーや村内木工作家さんたちの手ほどきを受け、木製スプーン・クリスマスツリーなど、世界に一つだけのオリジナルの作品造りを楽しんでいました。

朝日村は、その面積の大半を森林が占め、そこで産出される木材は村の貴重な財産でもあります。ウッド・クラフトを通じて、それを守り育てゆく知恵と意識が、これから子ども達にはぐくまれてゆく、そんな有意義な体験となつたのではないでしょうか。



### 朝日小学校音楽会

11月2日(木)朝日小学校音楽会が行われました。久しぶりに全学年が集い、多くの保護者・家族が鑑賞に訪れ、会場の体育館はちよつとした熱気に包まれていました。子ども達も大勢の観客を前にするのは久しぶりで少々緊張した面持ちでしたが、一生懸命合唱や合奏などを披露してくれました。コロナ禍では感染予防のため、鍵盤ハーモニカやリコーダーなどに取り組めていませんでしたが、ようやく解禁となり、いろいろな楽器を奏でることができるようになった姿を見せてくれました。







## 松本山雅ホーム・タウンday

10月8日(日)サンプロアルウィンにて松本山雅FCvsいわてグルージャ盛岡の試合に於いて「山雅FCホーム・タウン・day」が催されました。これは山雅FCの地域貢献活動の一環として、登録している各ホームタウンの紹介等を試合会場にて行うイベントで、毎年一回ずつ開催されているものです。

この日は朝日村・生坂村が紹介されました。試合前、特設ブースに於いては、季節の農産物販売を始め、スキー場など村施設の紹介パンフレット配布、村産品として「クレープ」や「まめ」などが販売されました。天候にも恵まれ、多数のサポーターが来場し、特産品も飛ぶような売れ行きでありました。ゲーム前にはピッチにて村を代表するメンバーの応援メッセージが発表され、試合に花を添えました。

朝日村には山雅応援団もあり、あししげく応援観戦に訪れる方々も沢山いらつしやいます。今季の山雅の成績は、上位に水を開けられ、苦しい展開が続いていますが、念願のJ2昇格を果たす為、シーズン終了まで熱く応援し続けるとの意気込みだそうです。サポーターの熱意にこたえる為にもチームの奮起を望むものであります。尚、この日のゲームは、1対4でグルージャ盛岡に敗れました。



## 第73回朝日村体育祭スポーツ・フェスティバル

10月9日(月)第73回朝日村体育祭スポーツ・フェスティバルが開催されました。

雨天のため屋外の種目は見送られました。幼児からシニアまで約1400の方がさまざまなスポーツに触れ、楽しく体を動かしました。

当日行われた種目は、ソフトバレー、ふわっとテニス、なわとび、バドミントン、スラックライオン、モルック、体力測定、の全7種目です。その他にブーメランや羽子板等の遊びも用意され子ども達で賑わっていました。

各種目には村内クラブ、愛好会、スポーツ推進委員、体育部の皆さんが指導者となつて、スポーツを盛り上げ、参加者は、自由参加で自分のやりたいスポーツが楽しめて来年も参加したいと話していました。また、総合受付を設け参加者にスタンプカードを配布していました。各スポーツブースでスポーツシスタンプをもらおうと参加賞が用意されていました。



## あさひ保育園 運動会

10月5日(木)、あさひ保育園庭において、保育園の運動会が開催されました。朝8時30分の開場前から場所取りの列ができるなど、始まる前から活気づいていました。

1つ目の「クワガタ体操」から始まり、うさぎ組(3歳児)、ぱんだ組(4歳児)、きりん組(5歳児)それぞれの成長に応じて障害物を越えていくサーキット運動や、全園児によるかけっこ、ダンス発表など全部で9種目が行われました。

途中、雨による中断が30分ほどありましたが、無事に全種目を終えることができました。

今回の運動会は、観覧者の入場制限等もなく、会場では、おじいちゃんおばあちゃんたちの姿も見ることができました。保護者の方にとっては、子ども達の成長を感じられる良い一日となったのではないのでしょうか。



# 熊久保だより

朝日美術館・民俗資料館発行



令和5年度

展覧会報告

4月8日～5月14日

朝日村づくりびと展

前回から5年が経ち、朝日村でのものづくりに携わる人々は増えてきています。

本展では14名のつくりびとによる作品と各自選んだ当館収蔵品のイチオシもコラボ展示し114点をご覧いただきました。

4月15日にはつくりびと5名によるギャラリートークが開催され、創作秘話やこだわりなど作家と交流しながら聞き入りました。



ギャラリートークでは各作家が作品について語りました

また会期中には6企画のワークショップも行われ、各作家が講師となり、木工スツルづくりや写真の現像・印刷などを体験しました。



クラフト体験館で行われたワークショップの様子

本展に併せ「あさひびじゅわくわくカプセル」も始まりました。第一弾では出展作家6名から提供されたオリジナル作品が当たるガチャです。何が当たるか期待する来館者に大人気で、約1000点近く用意されたグッズは二週間で終了するという盛況振りでした。



朝日村の作家の作品が当たる人気の「あさひびじゅわくわくカプセル」

5月20日～6月25日  
時のカプセル 中谷聡展

愛知県立芸術大学教授であり、彫刻家でもある中谷聡さんの石彫作品を紹介しました。「時のカプセル」と題した作品シリーズは、中谷さんの「石の中を見てみたい」という思いから始まりました。



「時のカプセル」は石の中をくりぬく技術に驚かされます

縄文むら公園に展示された約5トンの作品は、原石を

ふたつに割り、石の中をくり抜いて再びぴたりと合わせた「カプセル」になっています。



協力して高い塔づくりにチャレンジしました

6月17日ワークショップ「粘土であそぼう!」では、縄文土器の材料となった土の粘土を素手やはだしで触れて楽しくゲームを行いました。

様々な形のモノを粘土にスタンプを押す、粘土の中にビー玉を隠して競って早く見つける、粘土で高い塔をつくり高さを比べるなど楽しみました。朝日小児童を中心に村内外から18名が参加し大人たちの声援を受け競い合いました。

7月7日～8月27日

写真の概念をぶっこわせ!!  
塩島千典写真展

白馬村在住の塩島千典さんはジャンルにこだわらず多彩な表現に挑戦する芸術家で

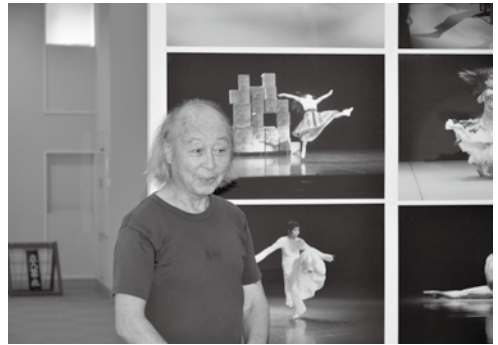
す。本展では写真作品にしほりご覧いただきました。幻想的な野の花々や躍動する舞踏家の一瞬をとらえた表現、被写体の説明が無い作品など132点が展示されました。写真を一点一点見るといふより、展示全体で構成された作品として楽しむことが出来ました。



写真を新聞紙や壁紙にプリントするなど自由な発想にあふれていました

7月22日にはギャラリートークが行われ、村内外から参加された16名が塩島さんの作品制作や被写体への思いなどとともに概念にとらわれない自由な発想と感性に触れ、驚嘆していました。





型破りな写真作品について語る塩島さん

開催中の展覧会案内

10月7日～11月26日

私たちの詩話

濱田卓二展

会期初日、ギャラリートークが開催され22名が参加しました。○△□をテーマに作品を制作している濱田さんは、土の彫刻家です。本展では朝日村の土で作品を創りながら縄文人が使った粘土を探す試みにも取り組みました。採取した土を粘土にする工程や、焼成で生じる変化、創作アイデアなど興味深い話に参加者は引き込まれました。



土の温かみに思わず触れたいくなる作品が並ぶ展示会場



朝日村で採取した3種類の土の性質を語る濱田さん

10月8日にはワークショップ「朝日の土で土器を作る」が開催され、村内外から

子どもを含む14名が参加しました。濱田さんから土の話や粘土の捏ね方、縄文土器の作り方などを学びながら、夢中になって自由に作った土器を、最後は野焼きで仕上げました。



土器づくりには大人ものめり込みます

これからの展覧会案内

12月9日～12月28日

R5ベストセレクション展

朝日美術館収蔵作品から選んだ作品を紹介します。

1月20日～2月4日  
鉢盛中学校美術部他作品展

当館初の鉢盛中学校美術部他生徒のみなさんによる作品展です。

2月10日～2月25日  
あさひっこ展

今年もやります。朝日小学校児童のみなさんの力作をご覧ください。

歴史民俗資料館お宝拝見 ⑫

灰釉陶器(かいゆうとうぎ)

朝日村歴史民俗資料館では、10月に展示ケースを増設し、新たに氏神遺跡(西洗馬)からの出土品を展示しました。

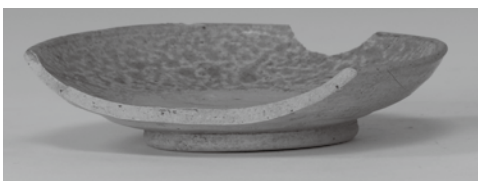
朝日村の遺跡は、縄文時代の遺跡が県内では有名ですが、氏神遺跡からは、村内で初めて平安時代(10世紀末)住居跡・掘立柱建物跡・墓坑が検出されました。

今回ご紹介するのは、平安時代の住居跡から出土した、灰釉陶器です。

縄文式土器・弥生式土器、それに続く古墳時代の土師器や須恵器との違いは、意図的に釉薬をかけて焼かれていることです。須恵器同様登り窯が必要となりますので、地元で生産されることはありません。

ませんでした。長野県内出土の灰釉陶器と同様に、猿投窯(名古屋市)や東濃窯(多治見市)方面で焼かれたものが、朝日村まで持ち込まれていたと思われる。

九世紀ころの灰釉陶器は、精巧で高級な食器として国衙や郡衙などの役所、有力社寺などで使用されていましたが、時代と共に庶民の日常食器としても普及するようになり、平安時代からは全国各地に流通するようになりました。



氏神遺跡から出土した灰釉陶器



## 窓口情報

※本人の了承を得て掲載しています。

### おめでた

地区名	出生児	月日	父	母
北村	筒井 希帆	8・16	建 晴	知 美
向陽台	西幅 陸	8・31	崇 行	佳 子
清水ヶ丘	常田 善	9・20	大 輔	奈々子
向陽台	中村 梨律	10・8	駿 平	眸

### おくやみ

地区名	氏名	年齢	世帯主
下古見	塩原茂一郎	74	本 人
下古見	上條 昇一	85	上條 浩充
御道開渡	齊藤 佳道	69	齊藤 和江
一之沢	上條 吉人	88	上條 秀登
新田上	市村と志彥	96	市村 善彦
下洗馬	小林和一郎	83	小林こまつ
原新田	中村佳代子	93	中村 和代
原新田	中村 誠博	76	中村 和代
西洗馬	山瀬トシエ	84	山瀬 正彦

## 庭の家庭菜園

今年も、失敗してもよい覚悟で家庭菜園をやってみようということになり、食べたい野菜の苗を一つづつ購入して植えてみました。「トマト」「きゅうり」「なす」「ししとう」「バジル」「青じそ」「ピーマン」「唐辛子」おまけに「スーパードライ」を買った小ネギの根っこを植え、最初こそ育ちが悪く失敗かと思っていましたが、天候が良かったのかそれなりに収穫でき、食卓を飾ることができました。ただ、バジルの葉の中

に「足長バチ」の巣ができてしまい、バジル全体を袋で被い引抜き、ハチの巣ごと潰す羽目になり、バジルはあまり使用できませんでした。それ以外は、「生食」「油いため」「やたら」にして美味しくいただきました。ちなみに、「やたら」とは主に北信地域で食べられている郷土料理で、夏の定番として親しまれ、野菜や漬物を細かく刻んで混ぜ合わせた料理だそうです。とにかく、やたらと何でも刻んだり混ぜたりすることから、「やたら」といわれるようになったそう



やたらチーズトースト

お台所  
エッセイ  
K・H



です。ごはんの上にかけてもよし、トーストしたパンに「やたら」とチーズをのせちゃってもよし。また来年も、家庭菜園と「やたら」を楽しもうと思います。



## みんなのアトリエ



朝日小学校3年1組

ひつでみん  
畢 徳明 さん

「ぶるさているかにだ！」

下の岩の中に、カニの形を描きました。



朝日小学校4年1組

やなぎさわ わか  
柳沢 和花 さん

「島引き鬼」

水面に映る影の部分を工夫しました。



朝日小学校5年1組

たかはしりあん  
高橋 璃杏 さん

「ピンクだらけの花」

中心の花を大きく描きました。真ん中の部分は濃く、交わらないように頑張りました。つぼみもあって、花っぽさが出ました。